



先日 TV を見ていたら、「玉鋼で作った両刃の鋸」が登場

兵庫県三木市の鋸鍛冶、2代目宮野鉄之助（1901～1996 明治34～平成8）が製作したものだという。刀の素材として 現代では極めて貴重な玉鋼を鉄素材として実用品の両刃の鋸がつい最近まで作られていたことにビックリ。

また、たたら製鉄で作られた大きな玉鋼の鉄塊 その部分部分で炭素量も違うし、不純物も多い。性質も異なる。 刀の素材として使うのにもその選別の眼かなければ 刀の製作はむつかしいときく。そんな玉鋼を素材に実用品の両刃鋸づくり。ましてや 両刃鋸 刀よりも薄かつ実用時に曲がることも多いし、目豎も……。均質で硬さが刀素材としての要件の一つですが、そんな刀素材よりもっと選別条件はむつかしいのでは……。 それも価格も違うと。

ネットで調べると 玉鋼で製作された両刃鋸をうたうものも千差万別 価格もバラバラ。どうも 偽物も多いらしい。

今 三木の鋸鍛冶 宮野鉄之助が製作した両刃鋸はきわめて、貴重。

2020年には神戸の竹中道具館の企画展として「宮野鉄之助—玉鋼を鍛えた鋸鍛冶」が開催され、「技と心」-三木の鋸鍛冶が語る鋸の歴史から使い方まで-のセミナーも。

やっぱり「たたら製鉄の鉄塊 玉鋼から鋸の素材をとりだし、鋸を製作する匠の技」はすごい技術なんだと。

昭和の時代 たたら製鉄の操業そのものもほとんど失われ、本人が直接たたら製鉄の操業にかかわらねば、玉鋼のそのものも入手できなかったろう。

そして大きな玉鋼の鉄塊から、小さく小割選別された玉鋼小片を選別組み合わせて、均質な鋸に鍛造できる素材を作るための選別・鍛造・熱処理もまた匠の技だったろう。

刀素材の素材を作る技とは違った鋸鍛冶の匠の技があったに違いない。

鋸鍛冶 宮野鉄之助さんは どんな匠の技をしゅうとくしていたのだろうか……。

興味津々で資料集めてみよう。小割片の選別のみならず、その組み合わせや熱処理・鍛造技術にも幾多の技が組み込まれているに違いない。

玉鋼(たまはがね)を使って鋸を作ることができた数少ない鋸鍛冶の匠 宮野鉄之助さんの両刃の鋸についてもう少し詳しく調べてみよう。 また、古代からの鋸も大きなものから小さいものまで 色々な鋸がたむ中道具館に展示されている。これにも刀とは異なる鋸の技が延々とうけつがれてきたにちがいない。

興味津々で 少し資料を集めてみよう。 …とにかかったところです。

まだまだとっかかりですが、両刃の鋸の歴史や宮野鉄之助さんの技術についての資料をみつけたので、宮野鉄之助さんの両刃鋸の技やたたら製鉄から玉鋼を取り出し素材づくりの技術について眺めてみたい。下記にざっとネットで見つけた資料のリンクリストを掲載。

刀とは違う道具の技の世界 ご参考になれば……

■ 竹中道具館 企画展「宮野鉄之助－玉鋼を鍛えた鋸鍛冶－」 2020.10.10.-12.13. 関係資料

竹中大工道具館 | 宮野鉄之助－玉鋼を鍛えた鋸鍛冶－

[https://www.douguan.jp/special\\_exhibition/tetsunosuke](https://www.douguan.jp/special_exhibition/tetsunosuke)

■ 「技と心」セミナー[99].

三木の鋸鍛冶が語る 鋸の歴史から使い方まで 2020.9.1.開催案内

[https://www.douguan.jp/wp-content/uploads/2020/08/miyano-tetsunosuke\\_flyer.pdf](https://www.douguan.jp/wp-content/uploads/2020/08/miyano-tetsunosuke_flyer.pdf)

■ 「左官鋸・道具」の(有)スズキ金物店 「播州三木の鋸鍛冶 名工「宮野鉄之助2」

<http://www.misyuku-suzuki-kanamonoten.com>

◎鋸鍛冶「宮野鉄之助」について

<http://www.misyuku-suzuki-kanamonoten.com/bansyuumikinonokokaji3.html>

◎<新発見/両刃鋸の出現四季について>

<http://www.misyuku-suzuki-kanamonoten.com/ryoubanokonosyutugenjiki1.html>

■ 近現代における両刃鋸の変遷について 船曳悦子 \*

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/douguan/21/0/21\\_2102/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/douguan/21/0/21_2102/_pdf)

玉鋼を鍛えた鋸鍛冶

# 宮野鉄之助

兵庫県三木市の鋸鍛冶、二代目宮野鉄之助(1901-96)は玉鋼を使って鋸を作る事ができた数少ない鋸鍛冶の一人でした。玉鋼とは、日本古来のたたら製鉄で精錬された鋼です。江戸時代の鋼は全て玉鋼でしたが、輸入鋼材の普及とともに、明治以降は次第に使われなくなっていきました。しかし刀鍛冶の家系に生まれた鉄之助は、戦後も玉鋼を使った鋸を作り続けます。そこには刀匠の技術に裏打ちされた、鋼を自在にあやつる匠の技がありました。本企画展ではその技術と作品の数々を紹介いたします。



**PROFILE**  
二代目宮野鉄之助(1901-96)本名津藤政一。字は朝彦。岡方斎と号した。兵庫県三木市に生まれ、13歳で家業の鋸鍛冶の道に入り、初代宮野鉄之助に師事。昭和13年(1938)に二代目を襲名し、鋸製作の第一人者となる。書画にも秀で、日本刀の刀匠としても活躍した。



- 1.鋸の抜き入れをする宮野鉄之助
- 2.マイコ「宮野鉄之助使用品」
- 3.ゼネシ「鉄鋸部」：宮野鉄之助使用品
- 4.千代鶴是善作鋸刃「凝縮の秋」と「宮野鉄之助作斧え所「玉ゆら」
- 5.樹付鋸「東照の秋」
- 6.両刃鋸「十六夜の月」
- 7.ゴザリ
- 8.幾切
- 9.畔検鋸「ひきよせてくれば」「のたでの ゆるりかな」
- 10.日本刀：1970年に三木市大宮八幡宮に奉納した品
- 11-18.はすべて宮野鉄之助の

どんな知恵が詰まっているか 興味津々 もう少し資料も集めたいと・・・  
三木市の鋸製作所も近いので訪ねたいと思っています。

2023.3.31. From Kobe Mutsu Nakanishi